

「赤レンガ」

【平成26年度・第6号（年度末号）】

発行：倉敷市立児島市民病院広報委員会・地域医療連携室



「レンゲとミツバチ」（当院職員撮影）

マメ科ゲンゲ属に分類される越年草。「レンゲソウ（蓮華草）」、「ゲンゲ」とも呼ばれます。春の季語としても使われており、水田に緑肥として栽培されているため、現在でも「レンゲ畑」としてよくみられます。レンゲの花のミツは、良い「みつ源」（蜂蜜の源）となる「蜜源植物」として利用されています。

巻頭言：

日照時間も長くなり、少しずつ春らしく温かくなってきました。この時期は花粉症や寒暖の差に起因する体調不良が多い季節です。新しい年度にむけて体調を整えましょう。また、感染症が流行しやすい季節ですので、うがい・手洗い等を心がけましょう。

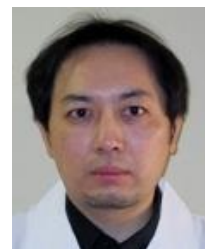
<目次>

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| P. 1 表紙「レンゲとミツバチ」・巻頭言 | P. 2 お知らせ（診療ニュース） |
| P. 3 チーム医療紹介 | P. 4 連携のひろば（王子脳神経外科医院） |
- 折込資料：「外来診療予定表」

【診療ニュース】

新たに常勤の内科医師が赴任しました。

さらに内科診療が強化されます！



近藤正太郎医長

当院の内科にて、長らく非常勤医師として勤務され、総合内科診療を担当してこられました近藤正太郎医師が、平成27年2月より新たに常勤内科医師の1人として赴任されることとなりました。近藤正太郎医長は内科の一般診療に加え、血液疾患（貧血・悪性リンパ腫、等）が専門です。毎週月曜日・火曜日・水曜日午前中の内科診療を担当します。

このたびの赴任で、さらなる内科の診療機能を充実に努めます。今後ともご支援をいただきますよう、お願いいたします。

【診療トピックス】

最近の乳癌診療における高精細超音波画像の意義

外科 川崎伸弘医長

児島市民病院では診療の高度化にともない、新しい診断装置が導入されてきています。そのなかで以前からおこなっている超音波検査も進化していることをお伝えします。

超音波画像診断装置は電離放射線を使わずにリアルタイムで体内を観察できるため様々な場面で利用されてきました。乳腺や甲状腺といった体表に近い臓器や肝臓のような腹部臓器は、途中で超音波をさえぎるものがないことから超音波検査に適した臓器と言えます。

超音波画像の画質は利用できる超音波の周波数つまり音の高さと内蔵するコンピュータの性能によってきまります。しかし技術的な理由から長らく7.5MHz 程度までの超音波しか発生させることができず力不足な時代が続きました。近年 10MHz を超える高精細装置が開発され、当院でも最新鋭機器を導入しました。すでに従来の装置ではわからなかった微小な癌の診断にも役立っていますが、高性能機が1台では院内の超音波診断の需要に追い付けなくなり、更なる最新鋭機器の追加導入も検討しています。今後さらに一層の質の高い癌診療の提供と診療・診断機能の向上が期待されます。



乳腺エコー



エコー機器

チーム医療の紹介 「褥瘡対策チーム」

褥瘡とは？

一般的には「床ずれ」と呼ばれています。

褥瘡は、長時間体の同じところに体重がかかったままになると、血液の流れが止まり、皮膚や皮下脂肪への酸素や栄養、老廃物の行き来ができなくなります。その結果、組織が損傷して褥瘡、いわゆる「床ずれ」となってしまいます！

褥瘡予防とケア

褥瘡は何よりもまず予防が大切！ものの数時間で発生することもあります。深い褥瘡は治るまでに数か月以上かかることもあります。予防には 3 つのポイント①耐圧分散ケア（長時間同じところを圧迫しない）②スキンケア（お肌を清潔・丈夫に保つ）③栄養管理（しっかり栄養を取る）が重要です。出来てしまった褥瘡には、塗り薬や創傷被覆材と呼ばれる貼り薬、手術などのほか、陰圧閉鎖療法という最新の治療を駆使して、早く治すことを目指します。



陰圧閉鎖療法
の機器です

手のひらサイズの
機器もあります



褥瘡対策チームメンバー

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、事務など多職種で構成されており、それぞれのメンバーが褥瘡予防、治療に知恵を出しあい、褥瘡の早期改善・治療に向けて頑張っています。当院では、2回/月、形成外科医師を中心に褥瘡回診を行っています。



チームみんな
で頑張っ
てますよ♪





王子脳神経外科医院

院長 胡谷直先生

当院は予防から治療・施設入所まで地域の皆さま一人一人にご満足いただけるトータルな医療・福祉を目指し、1992年10月に開院した有床診療所です。脳神経外科専門医である胡谷院長を中心に、頭痛やめまい・脳梗塞や脳出血など脳に関すること全般を検査・入院・紹介・リハビリ・施設入所等多方向からサポートしています。

また、MRI・CTをはじめ充実した医療機器に加え入院施設(療養病床18床・一般病床1床)を備え、症状は安定しているが家庭や施設入所では不安が残る方など急性期から慢性期へ移られた方が在宅へ復帰できるよう日常生活リハビリを積極的に行っています。

2015年1月には居宅介護支援事業所を開設させ、通所介護・通所リハビリ・訪問リハビリ・訪問看護・訪問診療・ショートステイ(医療療養)等、一人一人に適切なプランを提供し退院も安心して生活できるよう努めています。



所在地：倉敷市児島下の町5-2-17

電話：086-474-0111

診療科目：脳神経外科・内科

診察時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
15:00~18:30	○	○	○	-	○	○

休診日：木曜午後・日曜・祝祭日

発行者：倉敷市立児島市民病院

住所：〒711-0921 倉敷市児島駅前2丁目39番地

TEL：086-472-8111 (代表) FAX：086-472-8134 (連携室直通)

<http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/hospital/index.html> (児島市民病院で検索)